

# 月刊 動労千葉



国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)  
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番  
(公) 千葉 (22) 7207 番

1989.3.6 No. 2989

## 「89・3ダイヤ改」阻止闘争 (労物私物化増進) 要求の前進を確認し集約

### 第7回支部代で確認された当面する取り組み

- ① 三月二日または三日に職場集会を開催し、第7回支部代表者会議で確認されたことを全体に周知徹底する。
- ② 安全運転闘争をひき続き強化する。
- ③ 第20回定期委員会(三月十八日十三時～千葉県教育会館)を成功させていく。
- ④ 3・26三里塚現地集会への総力決起をかちとる。
- ⑤ 「4・15動労千葉結成10周年記念レセプション」を全組合員の手で成功をかちとる。
- ⑥ 「4・1分割・民営化2周年」糾弾闘争をかちとる。

● 動労千葉は、三月一日、第七回拡大支部代表者会議を開催し、この間ストライキ体制を確立して闘い抜いてきた「八九・三ダイヤ改」阻止闘争について、

① 乗務員仕業の改善については、次期ダイヤ改に向けて努力する。ダイヤ設定に当たっては、線区ごとの実態に踏まえて行う。

② 強制配転者の原職復帰については、配転期間も考慮する。

③ 乗務員の指導・訓練などについては、運転保安確保を第一として行う。

④ 年休消化に努力する。

の四点について、千葉支社当局との団体交渉の中で、一定の前進があったことを確認し、集約することを確認した。



さらにストライキ体制を強化しよう!

われわれは、この「八九・三ダイヤ改」について、十月に概要提案以降、第十五回定期大会で確立したスト方針に踏まえ、団体交渉を中心に全力で取り組んできた。

そして、一月段階に入っても、Bダイヤをはじめとする労働条件について一切提案しないことに対し、一月十八日、労働省・中央労働委員会に対するスト通告を行い、二月九日、第六回拡大支部代表者会議で、二月二十日以降、全支部、全職場、

全組合員を対象とするストライキ突入への準備体制を確立し、当局を追及して一定の前進をかちとってきた。

しかし、職場の切実な要求に対する当局の基本的に全く姿勢を変えない対応に対し、二月二五日、第十二回執行委員会において、三月十一日ダイヤ移行である以上、三月四日が団交の絶対的立場であることを見据え、三月四日にストライキを設定し、職場のストライキ体制を背景に団体交渉における最後の追及を行って

きたのである。

われわれは、この「八九・三ダイヤ改」阻止の闘いを「分割・民営化の過程で奪われた労働条件を奪還する突破口を切り拓く」闘いとして展開してきた。ストライキを配置した闘いの中で、「八八・三ダイヤ改」「八八・一ダイヤ改」を上回る大きな前進を確認することができる。今後、さらに、反合・運転保安確立、清算事業団闘争勝利へ向け、いつでもストライキがうてるように、闘う体制を強化していこう。



### 出版労働者連帯会議 世話人 野村豊秋氏を悼む

出版労働者の先頭にたち、わが動労千葉を全面的に支援し、闘い続けてきた野村豊秋氏が、昨年急性心不全のため逝去された。われわれは、労働運動の偉大な指導者を失った悲しみをおさえることはできない。

氏の導いた「光文社闘争」は七十年、「光文社社長」神吉晴夫の「ランマン体制」「人の私物化」

物の私物化」に対し全社的な怒りが爆発、これに端を発し、光文社労組、光文社に關係する週間「女性自身」記者労組、臨労働者労組の共闘による無期限スト突入、以来、本社当局は解雇、暴力団導入、組合分裂、逮捕などありとあらゆる手段で争議を潰しにかかるが七年に六十名で職場復帰をかちとる。この間、動労千葉の呼び掛ける各集

会の賛同人を務め、本山闘争を始めとした争議団闘争の先頭で闘う。闘いの現場においてつねに柔らかな、しかし階級的確信の底力ある笑顔で闘いの先頭にいた野村氏を絶対に忘れはしない。

労働者の未来のために闘いぬく事を霊前に誓う  
享年四七歳。